

熊本大が最高評価

文科省

文部科学省は4日、世界で活躍するリーダー養成を目的に2012年度から7年間、支援した24大学の大学院博士課程の評価を公表した。4段階で最高評価の7校に熊本大、東京大、大阪大、名古屋大、早稲田大、山形大、九州大を選んだ。

講師を招へい。環境問題など九州とアジアの課題解決に向けて上天草市、同仁化学、国立水俣病総合研究センター(国水研)、熊本日日新聞社などと講義やインターシップで連携をとった。

熊大の医学・薬学教育部が目指したのは、講義の英語化と産学官連携によって九州・アジアで活躍する健康生命科学の人材を育てる「HIGOPログラム」。

7年間で受講したのは、バン格拉デシユ、アルメニア、ナイジェリアなど9カ国の36人を含む78人。修了者の就職先は米ワシントン大、医薬品医療機器総合機構、国水研、KMバイオロジクスなどとなっている。

評価は①受講生の半数が留学生、女性と社会人経験者が各4割で

多様性ある学生獲得に成功した②5年目には日本人から起業者が出た③海外志向の企業や

行政機関に就職する学生が明確に増加したとした。講座のコーディネー

ターの小椋光・熊本大発生医学研究所教授は「九州、アジア、世界の企業、行政、学術機関で活躍する人材育成に引き続き取り組みたい」と話す。本年度からは熊大の自己資金で継続する。

(井芹道一)